

# Curious Eyes of a Witch

空間デザイナーは「空間翻訳者」より豊かな表現で空間を演出する  
312の店舗が織りなす新しい下町「東京ソラマチ」づくり

平田 裕二  
空間デザイナー・一級建築士



仁木 洋子  
空間演出プロデューサー



## 5年半のプロジェクト

**仁木** この度は、「東京ソラマチ」が、「ディスプレイ産業大賞（経済産業大臣賞）」を受賞され、おめでとうございます。

20年前に？ハウステンボスの視察をご一緒しましたよね。

いつも商業施設のすてきなデザインを手がけていらっしゃいます。

**平田** 商業施設のデザイナーだと思われがちですが、乃村工藝社に入社し11年間は、文化施設や企業のPR施設の仕事をしていました。

**仁木** どの分野がお好きなの？

**平田** 文化施設の仕事はスパンが長い分だけ長く残るのがいい。展示会は、短期で終わるのでメンテ

ランス性を問われない。商業の個人オーナーは、決断が速いが予算が厳しい。などと一長一短ですね。

**仁木** 東京ソラマチは、どのくらいの期間でしたか。

**平田** 5年半と長いスパンでした。

**仁木** 計画の初期からですね。

**平田** 通常1店舗で1年が、商業施設のスパンですから長いです。

第2東京タワーの建設地が押上に決まった後、商業コンサルのコンペに乃村工藝社が参加し、その時も社内でも声掛けされたのですが「コンペが取れたらやるよ」と話していたら、取れてしまったのです(笑)。

ソラマチは、コンサル3年、その後、設計業務も随契して頂き、施工は入札という流れで、コンサ

ルの初めに、墨田区が2020年にはこうなるという地域展望「墨田スタイル」を創りそのベースの上に、ソラマチができました。

日建設計さんが当初設計したソラマチは、街と隔絶したガラスの箱で、そこにコンサルとして入り、少しずつ変化させていったんです。

街自体が小さいスケールの集合体なので、ヒューマンスケールにあった建築にしましょう…からスタートさせ、何度かアイデアをぶつけ、当初はなかった参道ができ、外部照明やランドスケープなどで賑わいを積み上げていきました。

**仁木** 平田さんを中心に何名体制で取り組まれたのでしょうか。

**平田** 社員6名です。実際にはもっと多くの人員が関わっていました。ソラマチは、店舗数でも312店の大きな商業施設で、東と西に分かれてチーム編成し、僕は統括という立場で全体をみていました。

**仁木** 通常はディベロッパーやゼネコンさんが完成に近い形まで決定し、施工に入るケースが多いから、基本設計の前段階から携われたのは、よい機会でしたね。

**平田** 法規的な部分の設計はクリアし、建築まで進んで、商業的に



東京ソラマチ 施設全体イメージ

成功するか、楽しい空間になっているかなど商業施設の見直しを含めデザイン提案をしてくださいというケースがほとんどです。

今回は、東武鉄道さんがディベロッパーで、商業施設の開発はそんなに多くなく、スカイツリーをはじめソラマチのような大規模プロジェクトは、初の試みでした。

自分の土地でやりたいので、乃村工藝がコンサルとしてつけば、できると信頼していただいたことは嬉しいです。一方で、わからないことも多く、互いに勉強しながら進めていったというのが実感です。

**仁木** デザインの基本的な考え方について、教育をかねながら、仕事を進めていかれたのでしょうか。



東京ソラマチ 8F屋上広場

**平田** ある種、時間がかかりますが、必要なことではあります。

**仁木** 大規模だからこそ、ご理解いただいた上で進めることが重要です。途中で大変更の事件が起きないように…。

**平田** 感性だけでなく、ロジカルに積み上げていき正しいか正しくないかということを進めました。説明だけではむずかしいので、実際にほかの商業施設に行って、通路幅の感覚やサイン表示などを体験してもらいながら進めました。

**仁木** やりがいがありましたね。

## 統括という役割の試練

**平田** 僕は本来、ディレクター向きではないんです。普段だと、細かいディテールまでやりますが、今回はプロジェクトが大きすぎたので、統括ディレクションの立場で、ある程度のところで俯瞰して進めました。

**仁木** 指示はするけれど、実際のデザインを人に任せるのは、大変だったと思いますが、よかったことは？

**平田** これだけ大規模のプロジェクトを、広く万遍なくできた経験はよかったです。実際に、日建設



東京ソラマチ

計と乃村工藝社との2社で統括が取れたことも施設の統一感を持ちながら進めることができたのではないかと思います。

**仁木** 大型施設では、多くの企業が係わるが多く、目に見えない区分なのに何か違和感を感じるがありますが、東京ソラマチはとてもスムーズでした。

**平田** 大きすぎると、自分がどこにいるのか見失ったり、ずっと人工空調の中を歩くと疲れるので、僕は大きい施設はあまり好きではないんです。だから自分の目線で考え、ゾーンごとにデザインを変え、十分なシーティングを配置し、内と外を行き来できるように作りました。

江戸や昭和の町ベースという考えもありましたが、押上の町を歩いても記号が見つからず、ソラマチはカタチで示すことではないなあと感じていました。ある日、常連さんが来るような焼き鳥屋に初めて入ると、自然に詰めて席をつくってくれ、そんな雰囲気が、たとえばコンビニにもあるんです。心地よい緩さというんでしょうか。そこで「優しい、柔らかい、暖かい」をデザインテーマにしました。

**仁木** スカイツリーやソラマチには、今後何十年も初めて…という人が多く集う場所ですから、下町の雰囲気って、大切ですね。

**平田** 当初からこの施設は、3つのターゲット層が想定されていました。観光客、アーバンツーリズム、100km圏内の近隣来訪者です。これらのターゲット層は、目的が違うので混在すると雰囲気が削れません。そこでターゲットを意識して街区やフロアの構成を考え、東街区1、4階は観光客、2階から3階は近隣やアーバンツーリズム向けといったように分けました。

#### Japanese Sushiで表したコンセプト

**仁木** 5年半の間に、ほかのお仕事もなさったのでしょうか。

**平田** 通常は、いくつか併行することも多いですが、今回は、ソラマチのほかは、東京パレスホテルのチャペルをデザインしました。

**仁木** チャペルって、建築家にとって思い入れの深いものですね。

**平田** このチャペルから見える風景は日本唯一だと思っています。この風景をどうすれば最大限に生かせるのか考えました。

**仁木** とても繊細で美しい空間のチャペルですね。コンセプトは？

**平田** 一つのコンセプトではなく天井が高すぎると落ち着かないので、来た人を優しく包むベールをつくるという発想からはじまり、カタチは教会の記号でもある尖塔アーチとし、公園から見上げた時に、あのチャペルで挙式をしたいという憧れをつくるなど、9つのキーワードを集約してデザインをしました。

**仁木** 私はシンプルな美しさが好きなので、印象に残っていますよ。

**平田** シンプルってむずかしいですよ。見た目にはシンプルですが、内部構造や素材は複雑なんです。

海外のアワードの時、それをひと言で伝えるのに、「Japanese Sushi」と表現しました。Sushiってぱっと見には、シャリにネタを乗っただけで何もしていないよう

に見えますが、テクニカルなものを秘めていて、いかに上手く何もしていないようにみせるか、という日本の美意識が詰まっています。それと同じ考えです、という風に解説しました。

**仁木** 勝負しましたね！

**平田** 日本のコンペとは違い、文章をかなり書き込むコンペで、コンセプトや特徴のほかに、商業的にどんな成功をもたらすのか、社会的にデザイン業界にどんな影響を及ぼすのか、なども聞かれます。

これまで日本のチャペルに擬似的なものを感じていてもっと日本らしいチャペルはないだろうかと考えデザインした結果、嬉しくもアジアデザインアワードで大賞と金賞をいただくことができました。

**仁木** 前から好きなホテルでしたが、新生パレスもとてもいいです。

**平田** ホテルの姿勢がいいです。このチャペルは、横ラインにパイプを使用しているので、埃が積もることを想定し、施工検査での質疑にも対応できるようメンテナンスの提案を用意して臨んだのですが、一切質問はありませんでした。後日「メンテナンスが大変ではないですか？」と尋ねたのですが、「いいえ、この空間は商品ですからメンテナンスすることは、当然のことです」と言われました。

**仁木** さすが、パレスホテル！

繊細なレースのような美しさを感じ、利用したいという気持ちにつながります。

**平田** 日本の最高のおもてなしを謳うホテルは、メンテナンス費用

以上の効果に対しての価値を知っていることに感動しました。

#### 「ショートチャージ」というビジネスラウンジのコンセプト

**仁木** 去年は、JALのサクララウンジも手がけられましたね。

**平田** JALとして、これからのラウンジを考えた結果、「ショートチャージ」というコンセプトが出てきたものなんです。ターゲットを30代から40代のビジネスユーザーに絞って、ビールが飲め、メールをチェックし、充電ができる20～30分のビジネスラウンジです。

使用者の目線で考えるって、さっきのメンテナンスの話と同様に運営目線からちょっと変えるようになってきて、いいことです。

**仁木** 白いラインが特徴のシンプルでとても機能的な空間ですね。

**平田** いつも整然と見えるように背もたれがない座り易く、立ち易いツール等ストレスを感じさせない様々な工夫が、工業製品のように緻密にデザインされています。

#### クライアントとの関係性

**仁木** クライアントとの関係は、どんなスタイルでしょう。



新千歳空港サクララウンジ



**平田** クライアントにとっては失礼な話になりますが、言う通りになるうとは思わないですね。

**仁木** 私も一緒…。イエスマンが結果、クライアントにとって、ハッピーとはならないですね。

**平田** 極端なことを言えば、クライアントがそのデザインを嫌いでも、その空間に来た人がハッピーで、またそこに来たいとリピートが増えることで、結果としてクライアントに利益が出ればいいと考えています。

だから、言う通りに絵を描くことが良好な関係とは思わないのです。「YES」と応えているほうがクライアントからしたら使いやすいと思いますが、最終的によい結果にはなりませんから。

**仁木** 発注者が思い描いた80%を、平田さんがデザインすることで120%になり、結果、収入も増えるのがいちばん素敵なことです。

**平田** 僕は、空間デザイナーでもいいんですが、空間翻訳者だと思っています。クライアントのいう「愛してます」は、直訳すると「I Love you」ですがもっと違う豊かな言葉で表すこと、もっと相手に伝わる言葉にすることが僕の仕事だと思って30年続けてきました。

**仁木** これからも平田さんらしいデザインを楽しみにしています。今日はありがとうございました。

**平田 裕二 Yuji Hirata**  
空間デザイナー・一級建築士

1961年東京生まれ。武蔵野美術大学 造形学部建築科卒業。84年乃村工務社に入社後、博物館等の文化施設、ショールーム・展示会・博覧会等の企業PR施設、SC環境・レストラン・ホテル・ラウンジ等の商業施設といったあらゆる分野のデザインを最適化して提供する。昨年度 東京パレスホテル チャペルが、アジアデザインアワードで大賞を受賞し、アジアNo.1デザイナーとなる。

**仁木 洋子 Yoko Luna Niki**  
空間演出プロデューサー

熊本市生まれ。多摩美術大学卒業。(社)日本空間デザイン協会副会長。世界のモーターショーブースデザインやさまざまな空間の演出、プロデュースを行なう。地球環境・資源保護に配慮したその仕事は、欧州でも評価され国内外で積極的に活躍。2006年から東京・丸の内・有楽町で毎年12月に開催のチャリティ「ライティング・オブジェ」展を主催。2011年からは、東日本大震災復興支援として、「ライティング・オブジェ in 福島」も開催。2012年7月明治神宮「明治天皇百年祭」の夜間特別参拝の空間演出デザインを行なう。

www.illuminat.co.jp



東京パレスホテル チャペル

